

木造日蓮上人坐像



〔登錄年月日〕昭和六二年三月三〇日
〔種別〕有形文化財（彫刻）
〔名稱〕木造日蓮上人坐像
〔点数〕一軀
〔所有者等〕中道寺
〔所在地等〕荻窪二―二五―一

木造日蓮上人坐像

中道寺の本尊である。像高二四cm、膝張二四・五cm、膝奥一八cmの小ぶりな仏像である。

この像は平生は頭巾をかぶせて厨子内に安置されており、俗に「黒眼の祖師」とよばれて親しまれてきたものである。黒い玉眼の瞳、白眼の部分がとくに鮮やかで、「黒眼の祖師」といわれる所にもうなずかれる。

全体に厚手の彩色がほどこされ、破損した所もなく、はぎ合わせた箇所を詳しく知ることはできないが、おそらく寄木造りであろうと推測される。

着衣には金泥（あるいは金箔）の上に黒線で草花文をあしらひ、背面には朱を用いているなど、元はかなり華麗な彩色であったことをうかがわせる。

像の小さいわりには、顔貌の表出に細かな神経がはらわれており、日蓮上人の画像か何かをもとに、その面影を表現したものと考えられる。

造像の年代は中道寺が寺客を整えたと伝えられる寛永一三年（一六三六）頃か、それに近い江戸時代前期と思われ、江戸仏像造像史の一資料である。

【文化財所在地】

